

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人フードバンク TAMA

代表者・役職名 氏名 神山治之・理事長

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

すべての子供に笑顔を！ プロジェクト

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期＝法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

満身に食事がとれない子どもたちが存在するという状況を改善するため、有志が集まり2016年6月に設立総会を開催し、同年9月に東京都より法人格を取得。日野市、八王子市、立川市、昭島市等の東京多摩地域の行政、社会福祉協議会やNPO法人と連携し企業や個人から寄付を頂いた食品を児童福祉施設や子ども食堂、また、子どものいる貧困家庭に直接提供を始めました。なお、会員数は22名。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

食品ロスの削減に取り組むとともに、食品を必要としている貧困者、高齢者、児童等に食品を提供する事業を行うことにより、共生社会実現のために寄与することを目標としています。なお、食品は、食品関連企業様や個人の方々からの寄贈、また、フードドライブの実施による寄贈(年間で約40トン)で集めることができました。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

- ①企業や個人等からの寄贈食品を、社会福祉協議会等と連携の上、必要としている児童福祉施設、子ども食堂等に提供する。また子どものいる貧困家庭に食品を定期提供すると共に、夏休み、冬休みには集中的に提供する。これにより満身に食事がとれない子どものいる家庭への支援を行う。
- ②多摩地域の子ども食堂を連携して、安定的な食支援を定着化させ、満身に食事がとれない子どものいる家庭への支援を行う。
- ③講演会を開催するとともに、本法人ホームページを通して情報発信に努める。これにより子どもの貧困問題が地域・社会に共有される。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

本フードバンクも4年目に入り、社会的認知も高まったことにより企業等からの食品寄贈も増え、また、食品支援要請も増えてきました。特に2月、3月には新型コロナウイルスの影響により、そのニーズが著しく増えました。2019年4月～2020年3月までの数値的成果は、以下の通りです。

- ・立川市・多摩市:年間で食品約8キロを詰めたダンボール360箱(360世帯)を配送しました。
- ・日野市:2019年11月～2020年3月にかけて36世帯に食品を送付しました。
- ・児童福祉施設・子ども食堂への食料支援:721施設(延べ)、合計25,655キロの食品を配布。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

2019年度の取り組みは御蔭さまで大成功に終わることができました。引き続き児童養護施設、子ども食堂、ひとり親家庭への支援を展開してまいります。今般の新型コロナウイルスの影響が長引くことが最も懸念されます。このような状況下においての懸念材料は、ニーズに適した食材が必ずしも集まらないという点です。特に、子どもさん向けの菓子類やレトルト食品をどのように集めるかが課題です。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり・特になし



2019.10.19 八王子市子ども食堂へ食品提供



2019.8.1 多摩友の会にて子どもの貧困問題を



2019.8.17 八王子市児童福祉施設へ食品提供



2019/12/19 立川市の児童福祉施設へ食品提供



2019.12.16 立川市のひとり親家庭への個別食品配布作業



2020.3.5 日野市全児童館へ食品配布